

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2001-104369

(P2001-104369A)

(43)公開日 平成13年4月17日 (2001.4.17)

(51)Int.Cl.⁷

A 6 1 F 13/14
A 4 1 C 1/00
A 6 1 F 5/02

識別記号

F I

テマコード(参考)

A 6 1 F 13/14
A 4 1 C 1/00
A 6 1 F 5/02

C 4 C 0 9 8
Z
K

審査請求 有 請求項の数1 O.L (全 13 頁)

(21)出願番号 特願平11-330436

(22)出願日 平成11年11月19日 (1999.11.19)

(31)優先権主張番号 特願平11-218360

(32)優先日 平成11年8月2日 (1999.8.2)

(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 399036028

石井 俊一郎

茨城県東茨城郡小川町大字佐才676番地

(72)発明者 石井 俊一郎

茨城県石岡市東光台4-12-2

(74)代理人 100093816

弁理士 中川 邦雄

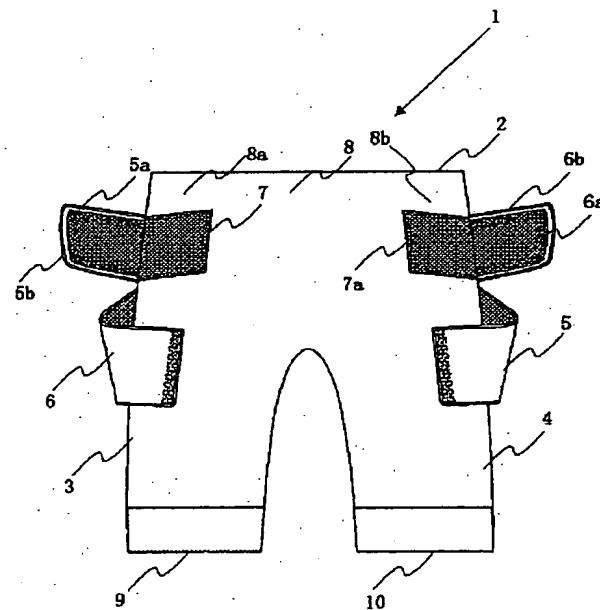
Fターム(参考) 4C098 AA01 BC03 BC08 BC18

(54)【発明の名称】 腰痛治療用ガードル

(57)【要約】

【目的】 本発明は、腰痛を和らげ腰を楽にさせる腰痛治療用ガードルの改良に関する発明である。

【構成】 本発明は、ガードル本体の右大腿部には先端部の背面に係止テープを設けた幅広の右伸縮バンドを取り付け、ガードル本体の左大腿部には先端部に係止テープを設けた幅広の左伸縮バンドを取り付け、右腰部及び左腰部に前記係止テープが係止するための係止部材を設け、前記右伸縮バンドと前記左伸縮バンドを要部の背面で交差させて装着することを特徴とする腰痛治療用ガードルの構成とした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ガードル本体の右大腿部には先端部の背面に係止テープを設けた幅広の右伸縮バンドを取り付け、ガードル本体の左大腿部には先端部に係止テープを設けた幅広の左伸縮バンドを取り付け、右腰部及び左腰部に前記係止テープが係止するための係止部材を設け、前記右伸縮バンドと前記左伸縮バンドを要部の背面で交差させて装着することを特徴とする腰痛治療用ガードル。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、腰痛を和らげ腰を楽にさせる腰痛治療用ガードルの改良に関する発明である。

【0002】

【従来の技術】 従来、実用新案登録公報第2010866号に掲載されている「体型補整用ガードル」及び権特開平10-8303号の公開特許公報に掲載されている「ガードル」は存在している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、従来のガードルは、一日中装着して動いていると装着部分からずれてしまうとともに、座ったり立ったりする時には太った人が装着した場合には腹部が圧迫されるために極めて不快である。

【0004】 また、従来のガードルの目的は、体型の補整を主目的とするものであり、腰痛を適切に治療することを目的とするガードルは存在しなかった。

【0005】 そこで本発明は、着用していても違和感がないとともに、補整をすることができるとともに腰痛を短期間に完全に治療することができる腰痛治療用ガードルを提供することを目的とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明は、ガードル本体の右大腿部には先端部の背面に係止テープを設けた幅広の右伸縮バンドを取り付け、ガードル本体の左大腿部には先端部に係止テープを設けた幅広の左伸縮バンドを取り付け、右腰部及び左腰部に前記係止テープが係止するための係止部材を設け、前記右伸縮バンドと前記左伸縮バンドを腰部の背面で交差させて装着することを特徴とする腰痛治療用ガードルの構成とした。

【0007】

【実施例】 以下に、本願発明について添付図面に基づいて詳細に説明する。図1から図3までは本発明である腰痛治療用ガードルの構造を示し、図4から図7までは人体の腰部に本発明である腰痛治療用ガードルを装着した状態を示している。

【0008】 図1は本発明である腰痛治療用ガードルの正面図、図2は本発明である腰痛治療用ガードルの背面図、図3は本発明である腰痛治療用ガードルの平面図である。

【0009】 図1に示すように、本発明である腰痛治療用ガードル1は、ガードル本体2に左伸縮バンド5と右伸縮バンド6とを取り付けた構造である。前記左右伸縮バンド5、6は、伸縮性があり、伸縮バンドの幅が幅広に形成されている。

【0010】 左伸縮バンド5の先端部5bの背面には係止テープ5bが取り付けられるとともに、右伸縮バンド6の背面には係止テープ6bが取り付けられている。

【0011】 図1に示すように、前記左伸縮バンド5は、一端がガードル本体2の左大腿部4に取り付けられている。そして、前記右伸縮バンド6の一端は右大腿部3に取り付けられている。

【0012】 図1に示すように、ガードル本体2には、左伸縮バンド5の先端部5bがガードル本体2の右腰部8aに係止するように、右係止部材7が取り付けられている。また、ガードル本体2には、右伸縮バンド6の先端部6bがガードル本体2の左腰部8bに係止するよう左係止部材7が取り付けられている。

【0013】 図2に示すように、本腰痛治療用ガードル1に取り付けられた左右伸縮バンド5、6は、臀部8cで×状に交差させるとともに、図3に示すように人体の腰部に巻き付けるようにして装着し使用するものである。

【0014】 図3中の符号9は人体の右足を挿通するための右足挿通口を示し、符号10は人体の左足を挿通するための左足挿通口を示している。

【0015】 図4は、本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させようとする状態を示した斜視図である。先ず、図4に示すように、本発明である腰痛治療用ガードル1に左右両足をガードル本体に形成されている左右足挿通口9、10に挿通させて人体14の腰部に当てる。

【0016】 図5は、本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させた状態を示した斜視図である図4に示すように、人体14の腰部に当たる状態で、図5に示すように、右伸縮バンド6の先端部6bは、腰部8の左腰部8bに取り付けられている左係止部材7aに係止するとともに、左伸縮バンド5の先端部5bは、腰部8の右腰部8aに取り付けられている左係止部材7に係止させて人体14の腰に装着する。

【0017】 図6は、本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させようとする状態を示した背面斜視図、図7は、本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させた状態を示した背面斜視図である。

【0018】 図6に示すように、左伸縮バンド5と右伸縮バンド6は、人体11の臀部14の部分で持ち上がるよう交差させて装着するものである。このように×状に臀部で交差させることにより、人体の腰部を包むこと

ができるとともに人体11の腰部を安定させることができ。

【0019】図8から図10は、本発明である腰痛治療用ガードルを装着した場合に、治療効果の及ぶ部分を示した図である。図8は人体の腰部の正面透視図、図9は人体の腰部の背面透視図、図10は人体の腰部の側面透視図である。

【0020】図8、図9及び図10に示すように、人体11の腰部11aの構造は、腰椎14の左右方向に腸骨12、12aがあり、前記腸骨12、12aの下方左右方向に大腿骨13、13aがある。

【0021】腰痛を治療する場合には、腰椎14、前記左右の腸骨12、12a及び左右の大腿骨13、13aを安定させることが必要である。本発明である腰痛治療用ガードル1は、幅広の左右伸縮バンドがある。

【0022】図11～図16に本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例、図17～図20に本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例、図21～図25に本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例、図26～図28に本発明である腰痛治療用ガードルの第4実施例、図29～図32に本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例を示す。以下、実施例ごとに詳細に説明する。

【0023】図11は本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の正面図、図12は本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の背面図、図13は本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の正面斜視図、図14は本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の背面斜視図である。

【0024】図11～図14に示すように、図1に示す腰痛治療用ガードルに大腿骨と臀部下部を通過する伸縮ベルト16を付加し、図11に示すように伸縮バンド5、6を正面骨盤下部より背面へ回し、背面の腰椎部分でクロスさせ、再度、正面へ回すように装着することで腰部を包むことにより、図1に示す腰痛治療用ガードルよりも骨盤全体が安定するようにしている。

【0025】伸縮バンド5、6は正面から見ると、図1の腰痛治療用ガードル1と比較して、人体太股部分まで伸ばすことにより、骨盤全体を保護できる。また、図14に示すように臀部下部を伸縮ベルト16により、持ち上げることにより臀部が上部へ引っ張られる。

【0026】図15は本発明である腰痛治療用ガードルの他の装着実施例の正面透視図、図16は本発明である腰痛治療用ガードルの他の装着実施例の背面透視図である。

【0027】図15、図16に示すように、伸縮バンド5、6、16により腸骨12、12a、大腿骨13、13aを固定し腰部を安定させ、腰痛防止と、臀部を持ち上げることによるヒップアップ効果にも役立っている。

【0028】図17は本発明である腰痛治療用ガードル

の第2実施例の正面図、図18は本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の背面図、図19は本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の正面透視図、図20は本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の背面透視図である。

【0029】図17～図20に示すように、図1に示す腰痛治療用ガードルよりも、より強固に骨盤を固定したい場合の例である。図17、図18に示すようにガードル本体の上部に腸骨を押さえるための水平ベルト19、中央部と下部に大腿骨を押さえる安定バンド17と水平ベルト20を設け、さらに固定するために背面を腰椎と大腿骨をそれぞれ繋ぐようにクロス状に伸縮ベルト18、18aを設けている。

【0030】その結果、図19、図20に示すように、伸縮ベルト19により腸骨12、12aが、安定バンド17、水平ベルト20により大腿骨13、13aが固定される。また、腰椎14から大腿骨13、13aに伸縮ベルト18、18aを設けることにより、より強固に骨盤を安定することができる。

【0031】図21、図22は本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の正面斜視図、図23は本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の背面斜視図である。

【0032】図1～図20の腰痛治療用ガードルは、骨盤を強固に固定するため、動きづらい面もあったが、図21～図29の腰痛治療用ガードルは、腹部の伸縮ベルトをなくすることで動き易くし、骨盤付近の筋についても補助することにより、がっちりと骨盤を固定しなくとも腰痛が防止できる腰痛治療用ガードルである。

【0033】臀部は、大殿筋と呼ばれ、骨盤がぐらつかないように筋による保護をしている。その一部に殿筋粗面及び大転子があり、大転子は大腿骨上部の外側に位置し、殿筋粗面は大転子の少し下に位置する。大殿筋は階段を昇る時や、座った状態から立ち上がる時に使用され筋が痛み易い。該大殿筋が正常な働きをしなくなると、骨盤も安定せず、腰痛が起こることも多々ある。

【0034】そこで本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例では、該殿筋粗面部と該大転子部を伸縮バンド5、6により補助することにより、大殿筋の働きを補助することで、骨盤を安定させ腰痛を防止する。

【0035】図21に示すように、伸縮ベルト21、21aを、正面の殿筋粗面下部の脇より大腿骨上部に設けることにより、骨盤の継付強弱ができるようになっている。また、図22に示すように、伸縮ベルト21、21aは係止テープ21d、21eを設け、係止部材21b、21cにより係止する。該係止テープ21d、21e及び該係止部材21b、21cにより体格に合わせた調整ができる。

【0036】調整が不必要的場合には、係止テープ21d、21eと掛止部材21b、21cを設けないで、伸

縮ベルト21、21aをガードル本体2の上部係止部材7、7aの下部に縫いつけててもよい。

【0037】また、図23に示すように、補助ベルト29、29aを臀部下部から上部へ設けることにより、臀部を上に引っ張りヒップアップ効果にも役立つ。

【0038】図24は本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の正面透視図、図25は本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の背面透視図である。

【0039】図24に示すように、伸縮バンド5、6により、骨盤下部及び腸骨12、12aを押さえ、左右伸縮ベルト21、21aにより、大腿骨13、13aを押さえ、背面も、図25に示すように、伸縮バンド5、6をクロス状に設け、腸骨12、12a及び骨盤下部、殿筋粗面28、28aを押さえ固定することで骨盤を安定させる。

【0040】図24、図25に示すように、腰痛治療用ガードルの第3実施例は、骨盤の安定は勿論のこと、階段を昇る時や、座った状態から立ち上がる時に使用される筋の保護も行っている。水平ベルトを使用せず、お腹が圧迫されずに、筋の保護と骨盤の安定を行い、なおかつ、動きやすくしている。

【0041】図26、図27は本発明である腰痛治療用ガードルの第4実施例の正面図、図28は本発明である腰痛治療用ガードルの第4実施例の背面図である。

【0042】図21～図25に示す腰痛治療用ガードルに、運動を行うことを意識して補助ベルト23、23a、24a、24c、固定ベルト26、26aを加え、運動等によって負荷のかかる筋を保護する目的で設けている。

【0043】筋の保護は、図26に示すように、大腿筋膜張筋を保護する側面補助バンド24b、24cと縫工筋を保護する左右補助バンド23、23aを左右に設け、更に殿筋粗面に固定ベルト26、26aを設けている。

【0044】骨盤の保護は、伸縮バンド5、6を正面より背面へ回し、背面の腰椎部でクロス状にし、再び正面へ回すことにより、固定し、筋の保護及び骨盤の安定を図っている。

【0045】また、側面補助バンド24、24a及び左右補助バンド23、23aは、筋の向きに沿って設けられている。

【0046】図26に示す腰痛治療用ガードルは固定式である。図26に示すように、大腿筋膜張筋補助バンド24b、24cと縫工筋補助バンド23、23aをガードル本体8の上部の係止テープ5a、6aの下部に縫いつけている。

【0047】図27に示す腰痛治療用ガードルは調整式である。図27に示すように、大腿筋膜張筋補助バンド24b、24cと縫工筋補助バンド23、23aを係止部材で係止する。その際、骨盤における縫付強弱を該補

助バンド23、23a、24、24aにより行い、体格に合わせた調整が出来るようにしている。

【0048】図29は本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の正面図、図30は本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の背面図である。

【0049】図29に示すように伸縮バンド5、6を正面骨盤下部より背面へ回し、背面の腰椎部分でクロスさせ、再度、正面へ回し、係止テープ5a、6aにより体型に合わせてガードル本体2に係止し、図30に示すように背面を大腿骨と臀部下部を通過する伸縮ベルト16により腰部全体を包むことで、骨盤全体が安定するようにしている。

【0050】また、ガードル本体2の左右側面下部に、大腿筋膜張筋を保護するために右補助バンド30及び左補助バンド30aを縫着し、左足挿通口9及び右足挿通口10の部分には、幅広の右締付ベルト31及び左締付ベルト31aを縫着する。

【0051】図31は本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の人体の正面透視図、図32は本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の人体の背面透視図である。

【0052】図31、図32に示すように、伸縮バンド5、6により、骨盤下部及び腸骨12、12aと筋殿粗面28、28aを押さえ、伸縮ベルト16により、大腿骨13、13aと大転子27、27aを押さえつつ臀部を持ち上げる。

【0053】図29～図32に示すような構造により、体型に合わせた腰部の締付が可能で、骨盤全体を安定させ、運動等において、また日常生活においても使用する大転子27、27a、筋殿粗面28、28a等の筋を保護することにより、筋の保護と腰痛の防止を行うことができる。

【0054】

【発明の効果】本発明は、以上に説明したような構成であるから以下の効果が得られる。第1に、本腰痛治療用ガードルは、一日中装着して動いても装着部分から離れることがない。

【0055】第2に、本腰痛治療用ガードルの左右伸縮バンドを臀部で交差させて締め付けることにより左右の骨盤のバランスが良くなるとともに、大殿筋の補強となる。

【0056】第3に、座ったり立ったりする時でも、ベルトが伸縮することにより腰部及び腹部が楽である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明である腰痛治療用ガードルの正面図である。

【図2】本発明である腰痛治療用ガードルの背面図である。

【図3】本発明である腰痛治療用ガードルの平面図である。

【図4】本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させようとする状態を示した斜視図である。

【図5】本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させた状態を示した斜視図である。

【図6】本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させようとする状態を示した背面斜視図である。

【図7】本発明である腰痛治療用ガードルを腰部に装着し、左右伸縮バンドを係止させた状態を示した背面斜視図である。

【図8】人体の腰部の正面透視図である。

【図9】人体の腰部の背面透視図である。

【図10】人体の側面透視図である。

【図11】本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の正面図である。

【図12】本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の背面図である。

【図13】本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の正面斜視図である。

【図14】本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の背面斜視図である。

【図15】本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の人体の正面透視図である。

【図16】本発明である腰痛治療用ガードルの第1実施例の人体の背面透視図である。

【図17】本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の正面図である。

【図18】本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の背面図である。

【図19】本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の人体の正面透視図である。

【図20】本発明である腰痛治療用ガードルの第2実施例の人体の背面透視図である。

【図21】本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の正面斜視図である。

【図22】本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の正面斜視図である。

【図23】本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の背面斜視図である。

【図24】本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の人体の正面透視図である。

【図25】本発明である腰痛治療用ガードルの第3実施例の人体の背面透視図である。

【図26】本発明である腰痛治療用ガードルの第4実施例の正面図である。

【図27】本発明である腰痛治療用ガードルの第4実施例に骨盤締付調整を付加した正面図である。

【図28】本発明である腰痛治療用ガードルの第4実施

例の背面図である。

【図29】本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の正面図である。

【図30】本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の背面図である。

【図31】本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の人体の正面透視図である。

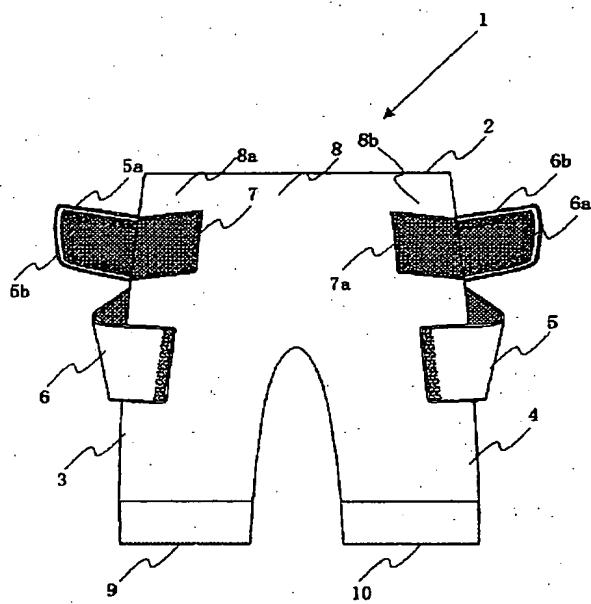
【図32】本発明である腰痛治療用ガードルの第5実施例の人体の背面透視図である。

【符号の説明】

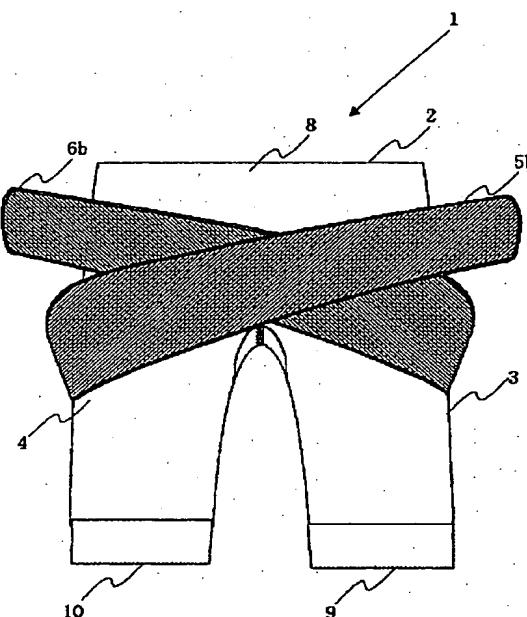
1	腰痛治療用ガードル
2	ガードル本体
3	右大腿部
4	左大腿部
5	伸縮バンド
5 a	係止テープ
5 b	先端部
6	伸縮バンド
6 a	係止テープ
6 b	先端部
7	係止部材
7 a	係止部材
8	腰部
8 a	右腰部
8 b	左腰部
9	右足挿通口
10	左足挿通口
11	人体
11 a	腰部
12, 12 a	腸骨
13, 13 a	大腿骨
14	腰椎
15	臀部
16	伸縮ベルト
17	安定バンド
18	伸縮ベルト
18 a	伸縮ベルト
19	水平ベルト
20	水平ベルト
21	左伸縮ベルト
21 a	右伸縮ベルト
21 b	係止部材
21 c	係止部材
21 d	係止テープ
21 e	係止テープ
22	水平ベルト
23	右補助バンド
23 a	左補助バンド
24	側面補助バンド
24 a	側面補助バンド

24 b	係止テープ	2.8	殿筋粗面
24 c	係止テープ	2.8 a	殿筋粗面
25	係止部材	2.9	補助ベルト
25 a	係止部材	2.9 a	補助ベルト
26	固定ベルト	3.0	右補助バンド
26 a	固定ベルト	3.0 a	左補助バンド
27	大転子	3.1	左縫付ベルト
27 a	大転子	3.1 a	右縫付ベルト

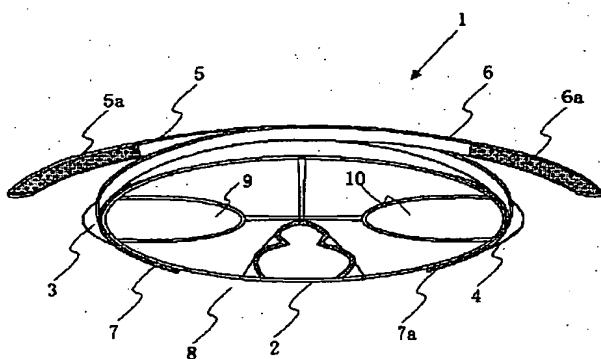
【図1】



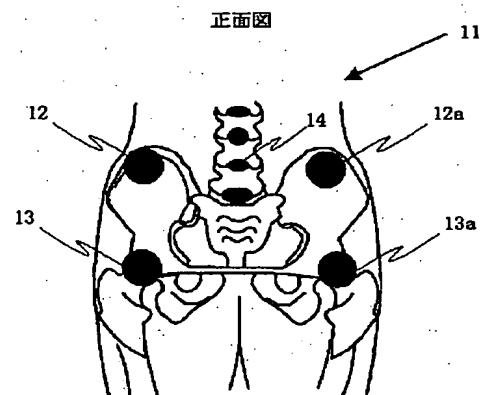
【図2】



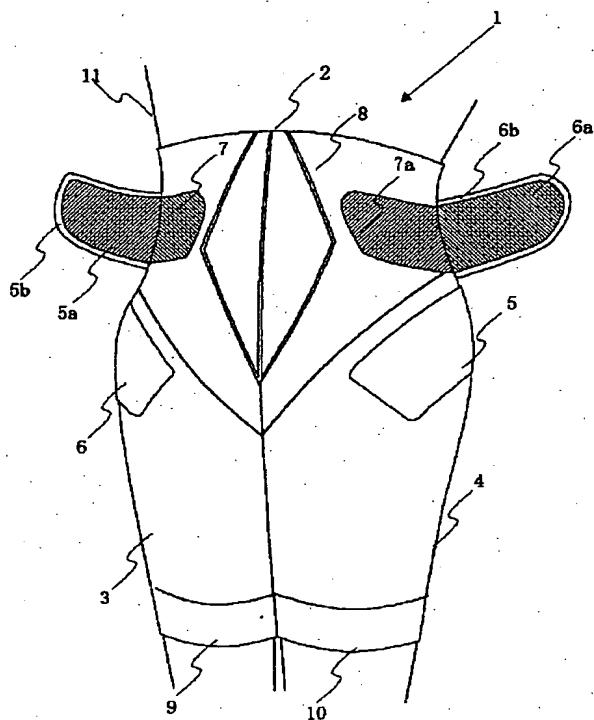
【図3】



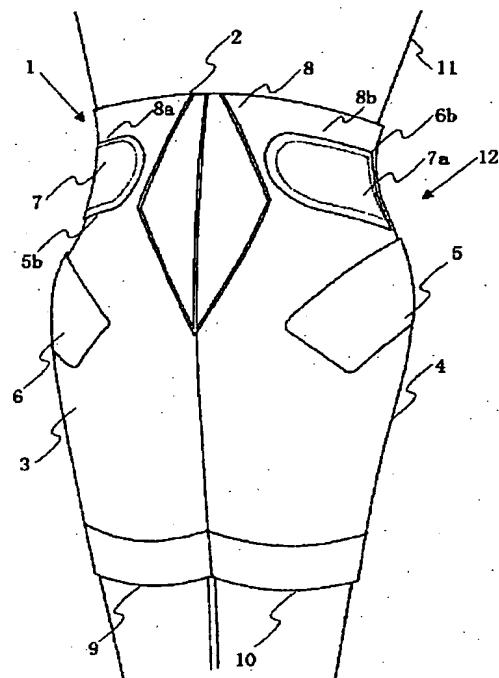
【図8】



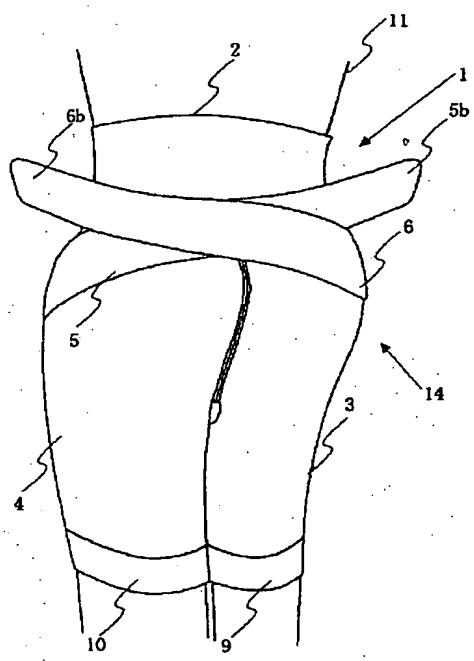
【図4】



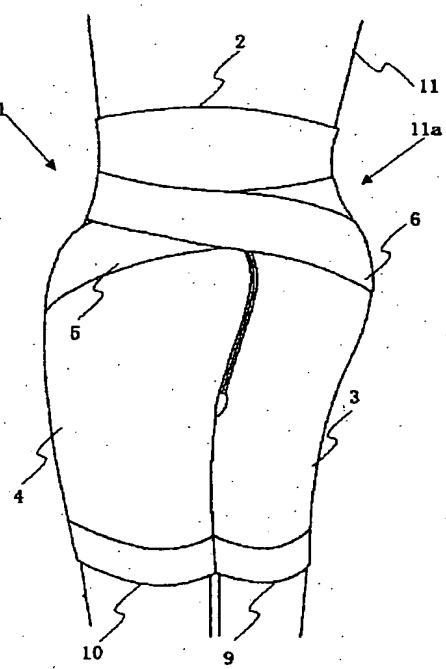
【図5】



【図6】

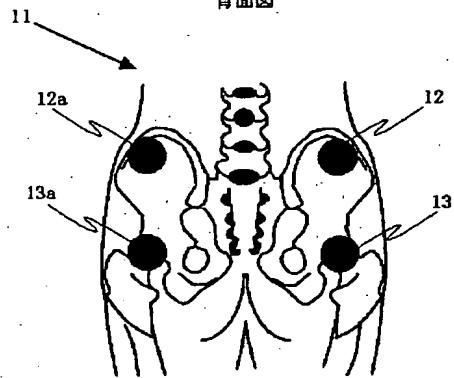


【図7】

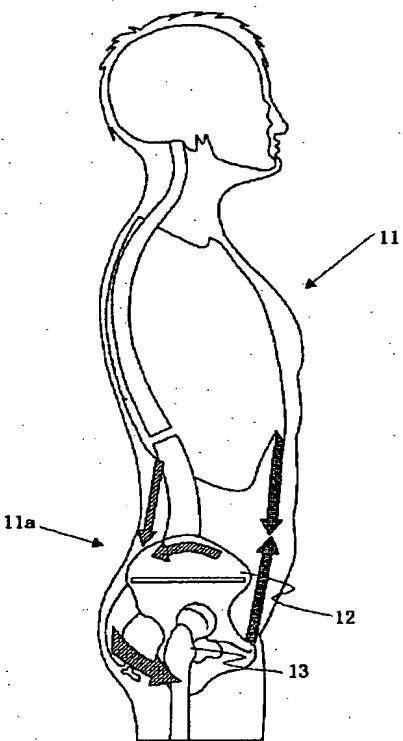


【図9】

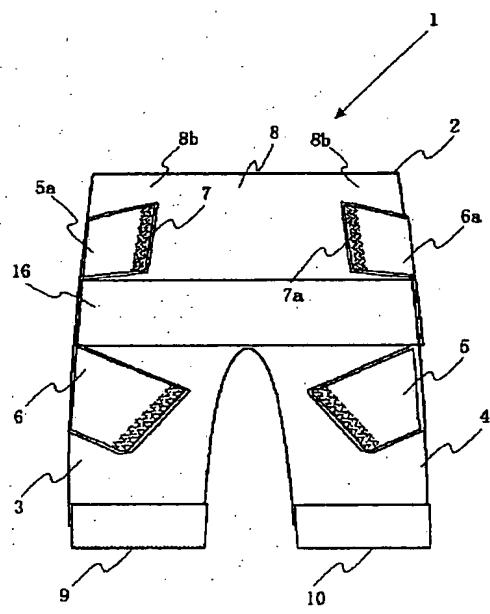
背面図



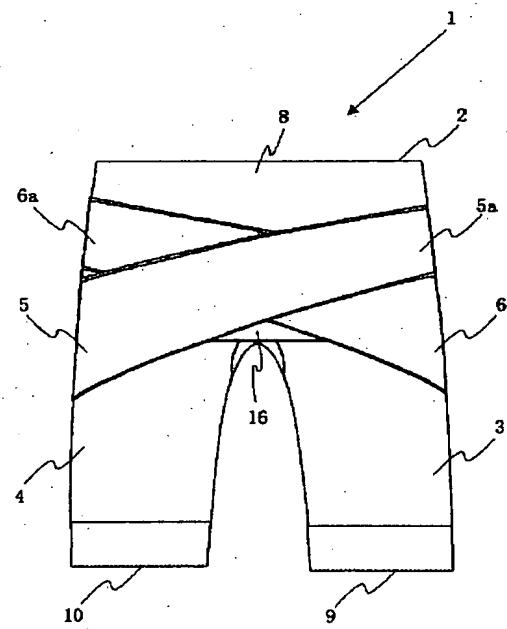
【図10】



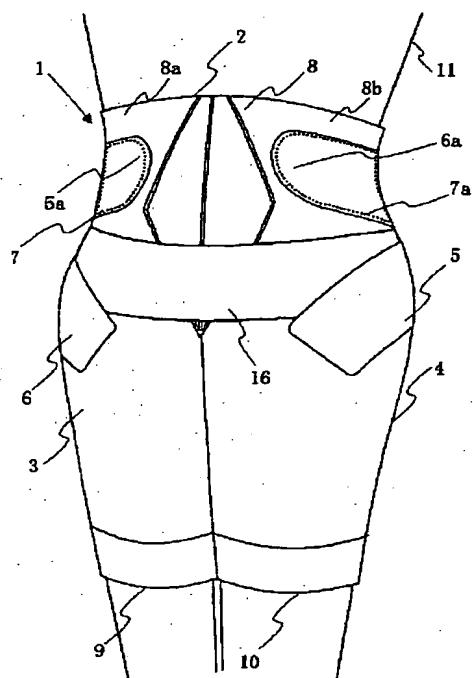
【図11】



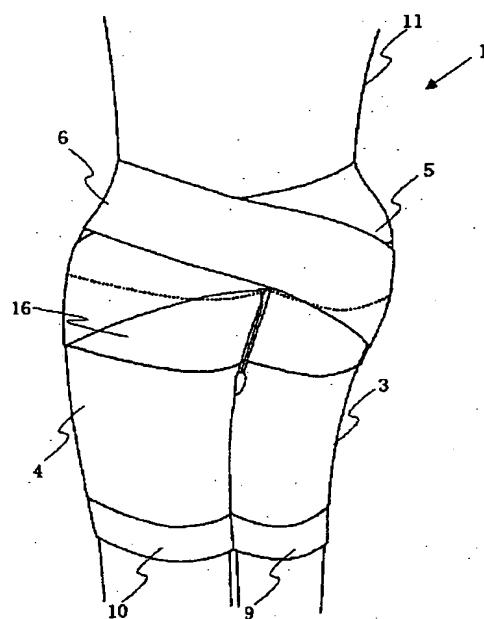
【図12】



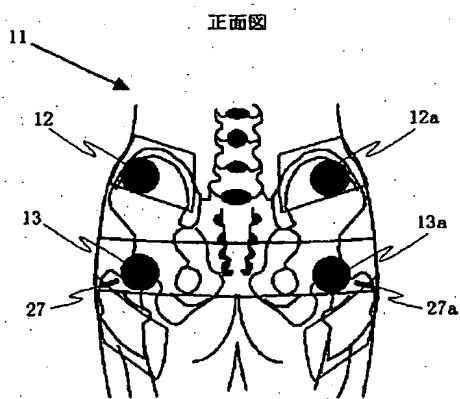
【図13】



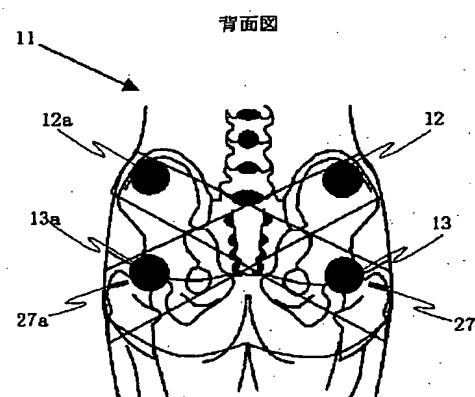
【図14】



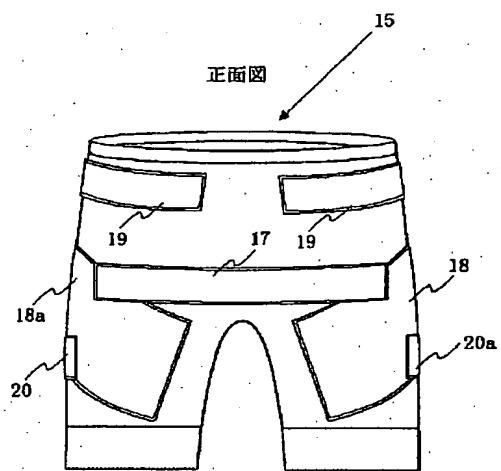
【図15】



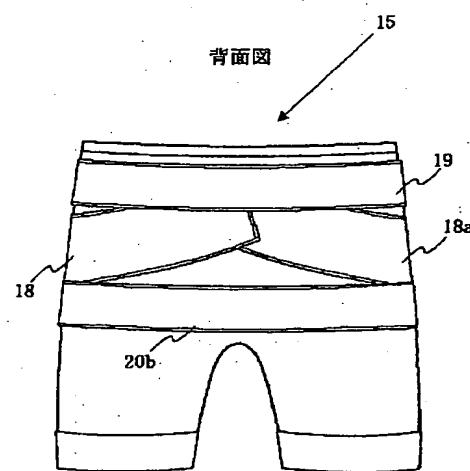
【図16】



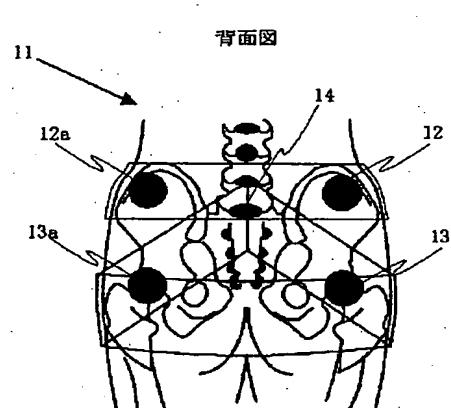
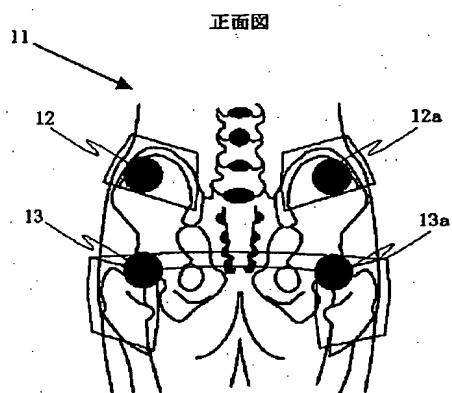
【図17】



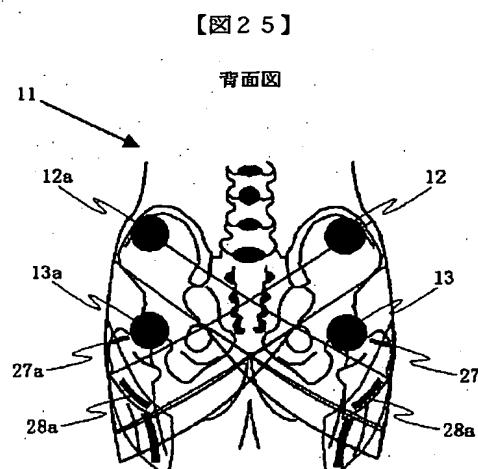
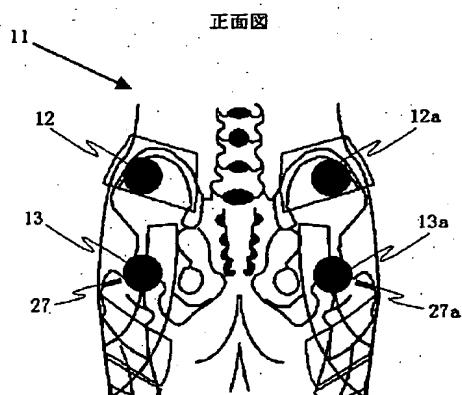
【図18】



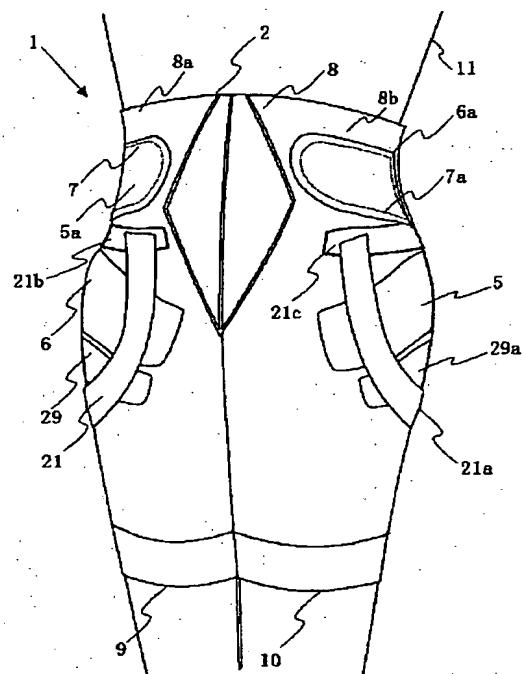
【図19】



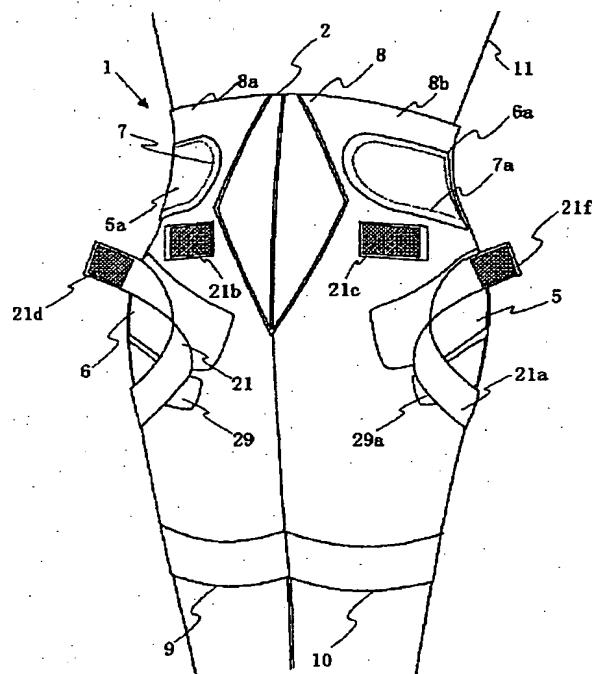
【図24】



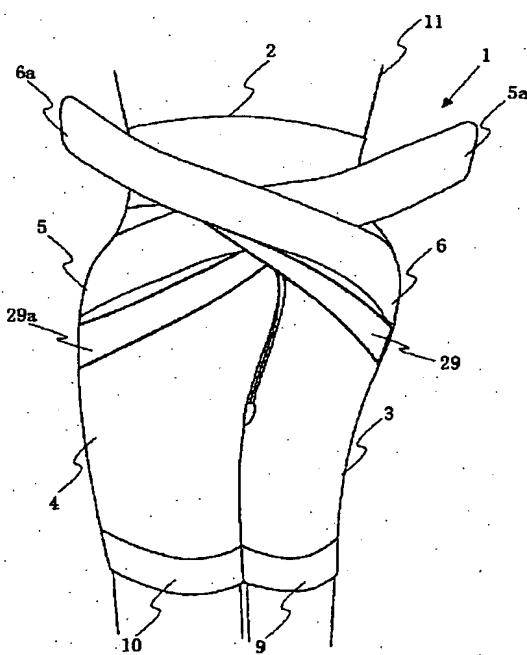
【図21】



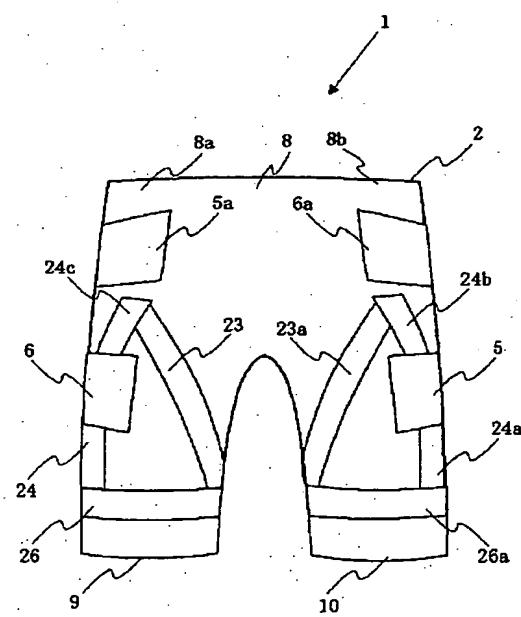
【図22】



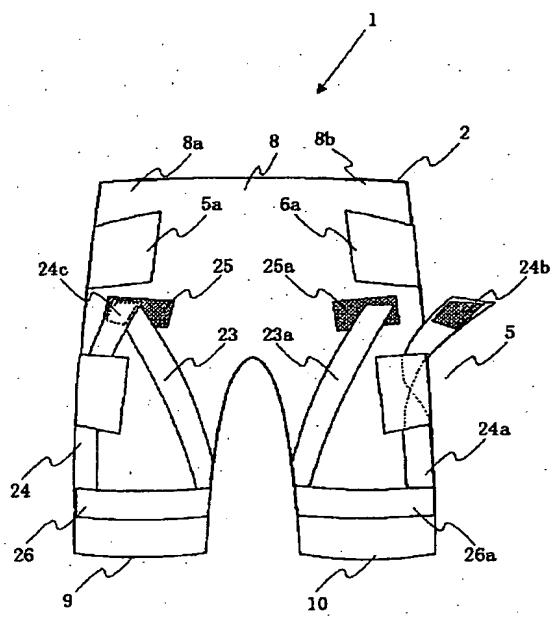
【図23】



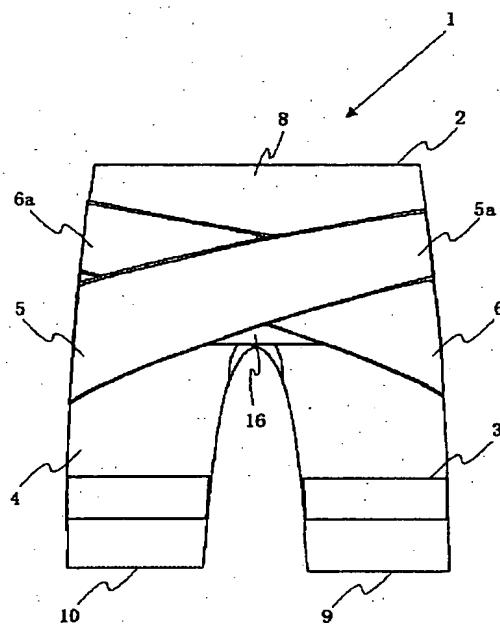
【図26】



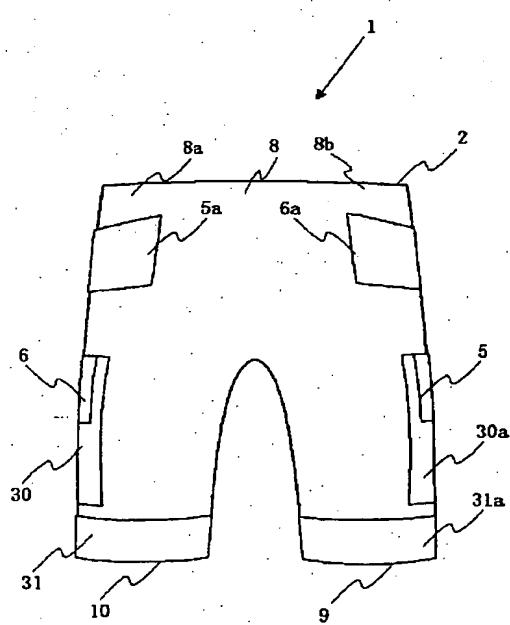
【図27】



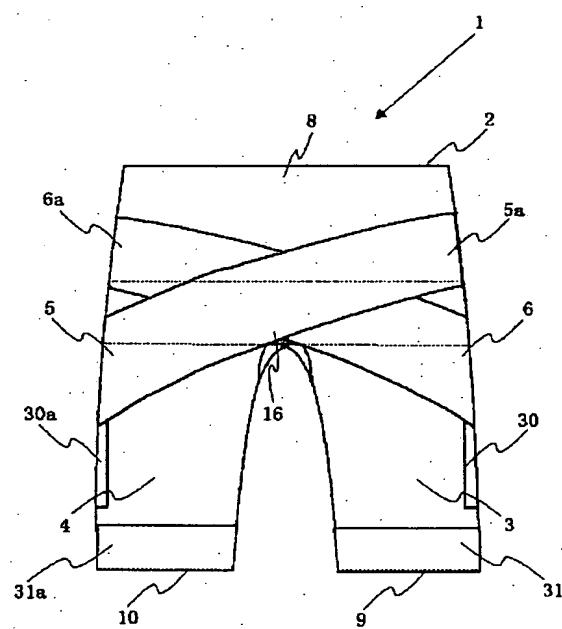
【図28】



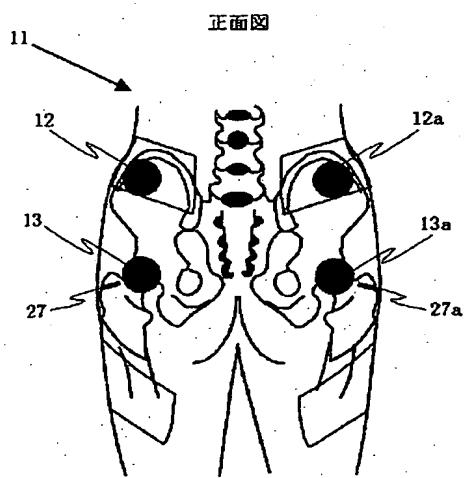
【図29】



【図30】



【図31】



【図32】

